

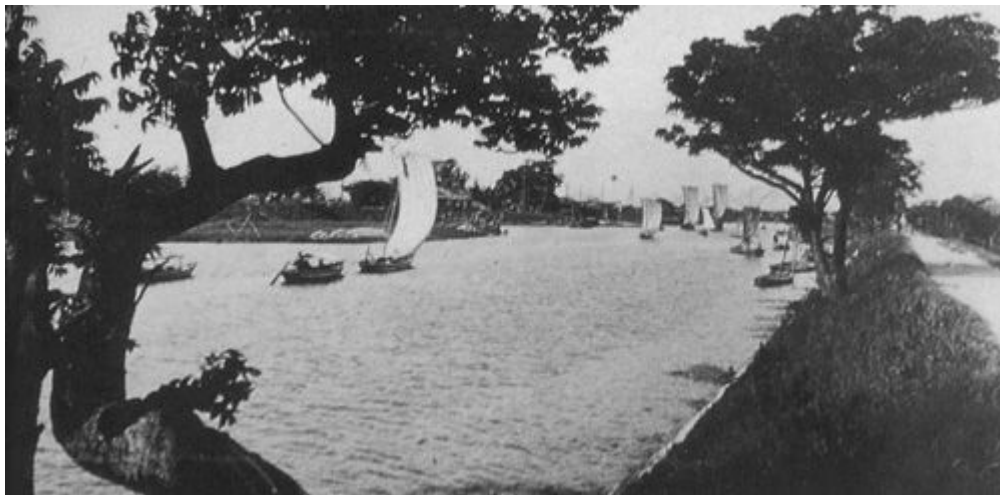
江戸時代、尻無川は今の大阪ドームの場所を通り、西区江之子島まで達していましたが、大坂市中の遊興の地であり、文久3年(1863年)の「浪華の賑ひ」によれば「此堤に黄櫨多く列なれり。紅葉の頃は錦色川水に映じせん望(遠く見渡すこと)又類ひなし。又春やよい弥生の潮干には蛤、蜆を取らんとして来る人おびただ夥し」とあります。

また、摂津名所図会にも鯊つり釣を楽しむ人々の姿が生き活きと描かれている絵があります。

また、尻無川は、「唐人滞」とも呼ばれ、朝鮮通信使の通る水路ともなっていました。これは、尻無川には幕府の御番所や御船蔵があったためです。

宝暦14年(1764年)の第11回※の際には塩飽島(香川県)の水主3,500人の加勢を得て紀伊国丸等の幕府の船や諸侯の川御座船が黄金張りで華麗な屋形を設け尻無川の河口から上陸地点の北浜までの川筋を遡る姿を、人々は川の兩岸に詰めかけ見学したようです。

※ 江戸時代の朝鮮通信使来歴(全12回のうちの11回目、目的: 将軍徳川家治襲封祝賀)



『大正区ホームページ』から転載

